

評価結果公表票

作成日 平成22年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0272100959
法人名	有限会社 三英会
事業所名	グループホームにここ
所在地	青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田町字平野206番地4 (電話)0173-82-1122
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年11月26日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年7月22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算	9.2人

(2)建物概要

建物構造	木造2階建て	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 5,400 円ほか
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80 歳	最低 63 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鰺ヶ沢中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、看護師として都心の大学病院でデイケアに携わった豊富な経験を活かし、利用者の詳細な体調管理を行うと共に、地域や医療機関、行政等との連携を図っている。
 「個人を尊重し、その人が望む暮らしをかたわらで見守ります」「地域の交流を大事にします」など地域密着型サービスの役割を盛り込んだ5つの理念を作成し、職員個々が理念の実現に向けてケアを提供している。
 同地区の小学生がホームに遊びに来たり、住民が野菜を持ってきてくれるなど、地域と良好な関係を築いている。また、クリスマス会などのホーム行事を企画し、地域住民に参加を働きかけているほか、町内にホーム便りを配布し、ホームの取り組み状況等を積極的に発信している。高校生のインターシップ等の受け入れを行い、ホームの持つ専門性や実践経験をできる限り地域に還元している。
 西北五グループホーム協会に加入したり、地区の6グループホームで研修会や勉強会を行うなどの交流を図り、職員の質の確保・向上に努めている。
 アセスメントで入浴習慣や好み等を把握している。ホームは温泉を引いており、週2回の入浴日には利用者の希望する時間に入浴できるよう支援している。

【特に改善が求められる点】

管理者研修や介護福祉士研修以外の研修について主催団体等に問い合わせるなどして、具体的に年間研修計画に組み入れることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に、職員会議で話し合い、やむを得ず身体拘束を行う場合は家族等に説明を行い、同意を得る体制を整えるなど、サービスの質の向上につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>月1回の職員会議等で、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を行うことは、日々のケアの気づきや見直しを行う良い機会と捉えている。また、日頃から自己評価を意識したケアを行い、自己評価を作成する際は全職員で取り組み、管理者が記載している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーに対し、積極的に参加を促している。会議ではホームの報告や地域包括支援センター等との情報交換、自己評価・外部評価結果の報告を行っている。会議で出された意見等は、職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>年3回ホーム便りを発行し、行事報告等を行っている。また、家族の来所時に日々の暮らしぶりや健康状態、受診結果等を報告している。金銭管理状況は領収書を添付し、毎月報告しているほか、緊急時は随時電話で報告をしている。</p> <p>重要事項説明書に、内・外部相談苦情窓口を明示しているほか、各棟の入り口にファイルを吊り下げている。意見等が出された際は、速やかに対応し、ケアサービスに反映させる体制を整えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の小学生が遊びに来たり、住民が野菜を持ってきてくれるなど、地域と良好な関係を築いている。また、ホーム行事を企画し、地域住民に参加を働きかけているほか、ホーム便りを配布し、ホームの取り組み状況等を積極的に発信している。高校生のインターシップ等の受け入れを行い、ホームの持つ専門性や実践経験をできる限り地域に還元している。外部の人を受け入れる際には、プライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。「個人を尊重し、その人が望む暮らしをかたわらで見守ります」「地域の交流を大事にする」など、5つの理念を作成している。</p> <p>毎日「トークの時間」を設け、利用者の希望や意向、疑問等を把握し、サービスに反映させている。</p> <p>地域包括支援センターや地区のグループホーム協会との連携や情報交換を行い、交流を深め、日々のケアサービスの質の確保・向上につなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族にホーム見学を勧めたり、提供するサービス内容を十分に理解できるよう、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族等と相談し、双方の意向に沿えるよう調整している。</p> <p>入居時に詳細なアセスメントを行っているほか、入居後の利用者の日々の暮らしぶりを通して個々の意向等を把握している。また、調理や昔の慣わし、後片付け等を職員と一緒にやり、共に生活し、支え合う関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>入居時のアセスメントで利用者を十分把握し、入居後も意向や希望の変更を常に把握している。また、日頃のケアで職員の気づきや意見を出し合っており、計画作成時に反映させている。</p> <p>管理者が看護師であることから、利用者の健康管理や状態変化時に素早く対応ができるほか、24時間相談等ができる医療機関を確保している。</p> <p>看取りの指針を策定し、家族・利用者・医療機関との意思統一を図っている。また、状態に応じて随時話し合いを行い、適切な対応ができるよう整備している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者優先という姿勢でケアを提供しており、利用者の希望に応じた生活を支援している。</p> <p>自己決定を大切に、無理強いすることなく、その日の体調等も考慮し、柔軟な支援を行っている。また、一人ひとりの趣味や楽しみごとを活かせるような場面作りを行っている。</p> <p>友人や知人宅への外出支援や花見、ドライブ、つがる地球村など、希望に沿った外出支援を行っている</p> <p>各居室には仏壇、タンス、ぬいぐるみ、写真等が自由に持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫を行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、「個人を尊重しその人が望む暮らしをかたわらで見守ります。地域の交流を大事にします」など、5つの項目を盛り込んだ独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示しているほか、毎朝の申し送りや月1回の職員会議等で共有を図っており、職員個々が理念の実現に向けてケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	同地区の小学生がホームに遊びに来たり、住民が野菜を持ってきてくれるなど、地域と良好な関係を築いている。また、クリスマス会などのホーム行事を企画し、地域住民に参加を働きかけているほか、町内にホーム便りを配布し、ホームの取り組み状況等を積極的に発信している。地区のゴミ拾いに参加したり、小学校の学習発表会見学や公民館主催の夏祭り等、地域行事に参加することで交流を深めている。さらに、高校生のインターシップ等の受け入れを行い、ホームの持つ専門性や実践経験をできる限り地域に還元している。外部の人を受け入れ際には、了承なく利用者の居室のドアを開けないよう注意を促したり、利用者に関わる掲示物は予め家族等の了解を得るなど、プライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の職員会議等で、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を行うことは、日々のケアの気づきや見直しを行う良い機会と捉えている。また、日頃から自己評価を意識したケアを行い、自己評価を作成する際は全職員で取り組み、管理者が記載している。評価結果を基に改善項目について話し合い、出来ることから改善に努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに対し、積極的に参加を促している。会議ではホームの報告や地域包括支援センター等との情報交換、自己評価・外部評価結果の報告を行っている。会議で出された意見等は、職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年4回ホーム便りを配布しているほか、利用者の日々の生活状況や入居状況等を常に連絡し、地域包括支援センターと連携したケアを提供している。また、自己評価や外部評価の結果を提出し、報告を行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する外部研修に参加し、伝達研修を行うことで、全職員が制度について、概ね理解している。今後は、必要に応じて情報提供を行い、各機関と連携を図りながら、制度利用につなげるよう支援する体制である。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成しており、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについての取り決めに整備している。また、日々のケア場面の事例を基に学習の機会を設け、理解を深めているほか、管理者の指導のもと、虐待の無いケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に、ホームの理念やケアの方針、取り組み等について十分に説明を行い、理解・納得を得ている。また、疑問等が残らないよう、家族等が意見や意向などを話し易い雰囲気作りに努めている。契約改訂や退居の際も十分に説明を行っているほか、退居の際は利用者や家族等が不安にならないよう、情報提供などを行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年3回ホーム便りを発行し、行事報告等を行っている。基本的に利用料を持参してもらっており、支払い時に日々の暮らしぶりや健康状態、受診結果等を報告している。また、金銭管理状況は領収書を添付し、毎月報告しているほか、緊急時は随時電話で報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、内・外部相談苦情窓口を明示しているほか、各棟の入り口にファイルを吊り下げている。面会時には声がけを行い、家族が気軽に話せる雰囲気作りに努め、意見等が出された際は、速やかに対応し、ケアサービスに反映させる体制を整えている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代による利用者への影響を理解し、できるだけ異動等を行わない方針である。職員の異動を行う場合は、申し送りノートの活用や前任職員と一緒に業務を行うことで十分な引き継ぎを行っている。また、利用者の状態に合わせた説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がスーパーバイザーを担い、業務に関する助言や相談を行っている。また、外部研修参加や資格取得の必要性を認識し、積極的な支援を行っている。研修後は報告書を作成し、職員会議で伝達研修を行い、全職員に周知している。管理者研修や介護福祉士研修の年間研修計画を作成しているが、その他の研修については文書を受けた時点で申請しており、年間研修計画に反映させるまでには至っていない。	○	管理者研修や介護福祉士研修以外の研修の主催団体等に問い合わせるなどして、具体的に年間研修計画に組み入れることに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西北五グループホーム協会に加入しているほか、鯉ヶ沢町グループホーム協会にも加入している。また、2ヶ月に1回、事例検討等を行い、同業者との交流を図っており、日々のサービスの向上や職員育成につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホーム見学を勧めたり、提供するサービス内容を十分に理解できるよう、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族等と相談をし、双方の意向に沿えるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時に詳細なアセスメントを行っているほか、入居後の利用者の日々の暮らしぶりを通して把握している。また、調理や昔の慣わし、後片付け等を職員と一緒にし、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に詳細なアセスメントを行っているほか、「トークの時間」を設け、利用者の意向や希望の変化等を把握するよう努めている。把握が困難な場合には家族と連携を図り、本人本位となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはできる限り利用者の意見を聞いている。また、毎日の申し送り時に全職員の意見や気づきを出し合っており、介護計画作成時に反映させており、個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、実施期間終了後は見直しを行っている。また、実施期間に関わらず、状態に変化があった場合には随時見直している。見直しの際は個人記録や申し送り、職員間の情報交換等で利用者の状態を観察し再アセスメントを行い、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの車輛を利用し、希望する医療機関への受診や知人、友人宅への外出支援を柔軟に行っている。また、家族が宿泊する際には寝具や食事の提供も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続受診や希望する医療機関への受診を支援しており、受診後は電話等で家族に報告し、情報の共有を図っている。また、体調変化や心配ごとのある時には24時間相談できる医療機関を確保している。管理者が看護師であり、利用者の日々の健康管理に十分配慮している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは終末期に対応しており、事業所の方針を明確にし、看取り介護の同意書を得ている。また、重度化や終末期の対応について医療機関や家族等と早期から話し合い、状態急変時の対応についての意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者優先という姿勢で日々のケアを提供している。また、職員会議等でプライバシー等について話し合い、利用者の羞恥心等にも十分に配慮している。利用者の個人記録等は事務室で適切に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望、その日状態に合った過ごし方ができるように柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好みに配慮しており、調理や下ごしらえ、後片付け等を利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒にテーブルに着き、会話を楽しみながら食事時間を過ごしており、食べこぼしのサポートもさりげなく行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	アセスメントで入浴習慣や好み等を把握している。温泉を引いており、週2回の入浴日には利用者の希望する時間に入浴ができるよう支援している。入浴を拒否する場合は、無理強いをせず、時間や日にちの変更、時間をずらすなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に作品作りを行ったり、クリスマスツリーの飾りつけ、小物作り、歌謡曲のビデオ鑑賞など、一人ひとりに合った楽しみごとや気晴らしの支援を促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出かけているほか、利用者の希望に応じて外食や知人、友人宅への外出支援を行っている。また、季節に合わせて、花見やミニ遠足、はまなす公園等へ出かけており、その際は利用者の身体的負担等に配慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての取り決め事項を作成しており、月1回の職員会議等で学習し、全職員が理解している。また、身体拘束を行わないケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合の記録等については、個人ファイルに記録し、家族等に説明を行う体制を整えている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い場所に面しているため、家族に説明し同意を得た上で、タッチ式の自動ドアを設置している。また、利用者が日常出入りする場所の施錠はしていない。利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、外出時には職員が付き添っている。さらに、無断外出に備え、地域住民から協力が得られるよう働き掛けを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した具体的な非難誘導策を作成しており、消防署の協力を得て年2回避難訓練を行っている。非難経路は玄関に掲示している。災害時には住民や警察の協力を得るよう働きかけており、災害発生時に備えて食料、飲料、トイレ、防寒具等の物品を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理者の知人である栄養士が作成し、バランスに配慮されている。また、1日の総摂取量を概ね把握しているほか、水分摂取量を概ね1,000mlとし、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、最新情報がある場合は職員会議等で勉強会を行い学習している。また、インフルエンザワクチン接種時には家族の同意を得て毎年行っているほか、感染症に関する情報を家族へ周知し、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせ、様々なソファや椅子、テーブルが配置されているほか、壁には季節の花などを飾り、四季を感じることができる。日射しはカーテンやブラインドで調節しているほか、職員の声などは静かで、テレビの音量等も適切であり、居心地の良い共有空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ生活用品を持ち込むよう働きかけており、仏壇、タンス、ぬいぐるみ、家族写真などを利用者の意向に合わせて配置し、居心地良く過ごせるような居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。